

きらきらと敗れし如く櫂急ぐ

藤田湘子

晴天の早朝、ダイヤモンドダスト（細氷）の中を遠ざかる馬櫂の情景だろうか。「きらきらと敗れし如く」の比喻が鮮明。美しく耀くものに「敗れし如く」の負のイメージは凡人では思いつかない。

この句を読んだ直後、塚本邦雄の短歌「秋風の曾曾木の海に背を向けてわれは青天よりの落ち武者」の一首が思い出された。敗者には敗者の美学がある。

湘子は『実作俳句入門』において、

「喩えられるものと喩えるものとの関係が、常識で結ばれているのではなく、意外性や飛躍があつて、しかも作者の一人合点や独善に陥っていない——これが比喻の要諦です。」と述べていた。